

# 真備地区復興懇談会における 主な意見について

# 令和元年度 真備地区復興懇談会の開催

- 真備地区の復興に向けて、平成31年3月に策定した「真備地区復興計画」の復旧・復興の取組状況を説明し、住民の皆様からご意見をお伺いするために開催



日 時		開催場所	参加人数	
10月26日(土)	13時～15時		藪小学校 体育館	約30人
10月27日(日)	13時～15時	約30人		

## 【方針1】 経験を活かした災害に強いまちづくり

- 5年計画の治水対策の完成を急いでほしい
- 河川のハード整備（国・県・市）のスケジュールはどうなるのか
- 高梁川の堤防強化や河道掘削についても早急に進めてもらいたい
- 内山谷川（市管理）の嵩上げはいつから行うのか
- 陸閘を人の作業で設置しなくてすむように恒久的な対策をしてほしい
- 川辺、尾崎、呉妹、服部など避難所がない地区に避難場所を設置してほしい
- 公費解体等で更地が増えている中で、狭隘道路の拡幅など避難路整備を進めてほしい
- 要支援者の避難対策にしっかり取り組んでもらいたい
- 地域で過去に起こった災害を子どもが必ず学ぶなど、学校教育で防災のカリキュラムに力を入れるべき
- 災害に強い地域を作るためには、町内会単位が最適であるため、町内会の再建と災害時の情報が町内会に伝わるのが重要

## 【方針2】 みんなで住み続けられるまちづくり

- 災害公営住宅は、再度アンケート調査を行うなど、必要な戸数を確保できるように検討してほしい
- 災害公営住宅は、地域住民の避難場所としても活用したいので、日頃から災害公営住宅の集会所の運営に、住民も関わりたい
- みなし仮設から真備地区内のアパートに引っ越し出来るようにしてほしい
- ハード整備だけでなく、心の復興にも力を入れてもらいたい

## 【方針4】 地域資源の魅力を伸ばすまちづくり

- 復興防災公園（仮称）は、災害時の拠点の場や防災学習の場、真備地区住民の憩いの場だけでなく、倉敷市民や市外からも訪れてもらえる場所、小田川の恵みを楽しむ場所にしてほしい
- 若い人が真備町に住みやすいまちづくりに取り組んでももらいたい

## その他

- 多くの住民がまだ仮設住宅で生活しているため、地域行事などの活動運営費の確保に苦慮している